

令和6年10月1日

保護者 様

舞鶴市立倉梯第二小学校

校長 岡本 恵理子

令和6年度 全国学力・学習状況調査(6年生)の結果より

文部科学省による全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度より実施されています。

本年度の調査は

教科に関する調査(国語、算数)

生活習慣に関する質問紙調査

がありました。

教科に関する調査は、令和2年度までは教科ごとにA問題(主に知識を問う)とB問題(主に活用の力を問う)を分けて実施していましたが、令和3年度より知識と活用を一体的に問う形で調査が行われるようになりました。昨年度から生活習慣に関する質問紙調査のみタブレット端末で行っています。

令和6年度の本校の調査結果は以下のようになっています。

【国語】

国語については、平均正答率が全国平均を上回りました。特に、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題、言葉と言葉・情報と情報との関係付けを理解する問題などがよくできていました。一方、漢字を文の中で正しく使う問題、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題などに課題が見られました。タブレット学習が導入され、鉛筆で文字を書く機会は以前に比べると減少しがちですが、今後、学習した漢字を生活の中で使う力の定着を一層図るとともに、どのように書けば、自分の伝えたいことをより効果的に伝えることができるのかを考える力を育てていきます。

【算数】

算数については、平均正答率が全国平均を上回りました。特に、数量の関係を、□を用いた式に表す問題、直方体の見取図について理解し、描く問題などがよくできていました。一方、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題、速さの意味について理解する問題などに課題が見られました。公式を覚えていても、文章を読んで題意を正しく理解しなかったり、思い込みで判断してしまったりして、正しく考えられなかった児童が多く見られました。今後は、題意を正しく理解ができるようにするとともに、応用・発展的な問題にも対応できる力を育てていきます。

【質問紙】

『授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすること』に高い意欲が見られました。『学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直すこと』『自分に必要な学習を選ぶこと』が少しずつできるようになってきていることがうかがえます。また、家庭での生活習慣や規範意識、自己肯定感など、学びの基礎となる力も育ってきていることが分かります。

今回の結果を受け、こうした力が普段の学習や生活にも活かされるよう、教職員一丸となって取り組んでいきます。児童一人一人に寄り添いながら発達の段階に合わせて丁寧に指導するとともに、小中の連携についてもさらに充実させていきたいと考えています。今後も引き続き、ご理解・ご協力をお願いいたします。